

2017年度 日本臨床検査医学会 第3回 理事会 議事録

日時：2017年10月14日（土）13：30～16：30

場所：日本臨床検査医学会 事務所

出席：矢富 裕理事長、山田俊幸副理事長、村上正巳 総務理事、諏訪部章会計理事、東條尚子庶務理事、前川真人、小柴賢洋、宮地勇人、谷直人、木村聡、戸塚実、柴田綾子、清水力、本田孝行、石井潤一、通山 薫、岡山昭彦 各理事
尾崎由基男、高木康 各監事（19名）

欠席：下正宗、賀来満夫、一山 智、各理事（3名）

I 矢富裕理事長から挨拶があり、小柴賢洋理事、岡山昭彦理事を議事録署名人に定めて議事を進めた。

II 報告事項

1. 支部報告

各支部報告の2017～2018年度の支部例会・総会予定、支部地方会予定、支部所属の人事変更等について報告された。

2. 各種委員会報告

1) 編集委員会（村上正巳 担当理事）

9月6日に委員会を開催し、トピックスの進捗状況の確認・立案、科学技術振興機構データベース収録の許諾依頼等について検討したことが報告された。

2) 教育委員会（本田孝行 委員長、山田俊幸 担当理事）

5月27日の第73回関東・甲信越支部例会と11月5日の第28回関東・甲信越支部総会開催前にRCPCを行ったこと、第64回学術集會において、11月18日のワークショップ「新専門医時代～臨床検査専門医がこれから考えていくべきこと～」をワークライフバランス委員会と企画したこと、11月19日の生涯教育（RCPC）、Catch up セミナーを企画したことが報告された。

3) 倫理委員会（通山 薫 委員長、諏訪部章 担当理事）

理事会に先立ち確認依頼をしていた「残余検体の取扱いに関する日本臨床検査医学会見解2017年」改訂案が報告され、本日の理事会、第64回学術集會での医療倫理シンポジウムを開催し、議論を経て最終案を策定予定であることが報告された。

4) ワークライフバランス委員会報告（山田俊幸 担当理事）

9月からホームページ「臨床検査専門医を目指す方へ」の臨床検査専門医紹介コーナーに臨床検査専門医の声（現在7名）を掲載したこと、第64回学術集會において、11月18日にワークショップ「新専門医時代～臨床検査専門医が考えていくべきこと～」（ワークライフバランス委員会、教育委員会共催）を開催することが報告された。

4. 第64回学術集會・第29回 World Congress 報告（京都2017/11/14（火）～11/19（日））（村上正巳 会長）

国立京都国際会館（京都）において、2017年11月16日（木）～19日（日）に、テーマ「次世代の医療の進歩への貢献」（Contribution to Medical Innovation of the Next-Generation）として、第64回学術集會を、11月15日（水）～18日（土）に第29回世界病理学・臨床検査医学会連合会議（The 29th World Congress of World Association of Pathology and Laboratory Medicine (WASPALM)）を同時期開催する。一般演題は国内294題、国際220題を採択した。本会の日程表と主な行事、講演等が報告された。

5. 第65回学術集會報告（東京2018/11/15（火）～11/18（日））（東條尚子 庶務担当理事）

2018年11月15日（木）～11月18日（日）に、京王プラザホテル（東京）において、村田満会長（慶應大）のもと、テーマ「新しい医療を支える検査の力」にて開催予定であることが報告された。

5. 役員（理事・監事）選挙報告、支部理事について（東條尚子 庶務担当理事）

2017年7月10日（月）公示、2017年8月21日（月）～9月4日（月）立候補届受付、2017年9月19日（火）選挙投票用紙発送、2017年10月17日（火）必着で投票締切、2017年10月18日（水）開票予定で次期理事・監

事選挙を実施していることが報告された。

なお、次期（2018・2019年度）支部理事は選挙終了後に、各支部に第4回理事会（12月23日）までに推薦依頼する予定であることが報告された。

6. 本学会からの関連団体委員推薦について（更新）（矢富 裕 理事長）

9月11日に、臨床検査振興協議会在宅医療チームのための臨床検査委員会委員として、山中崇先生（東京大・在宅医療学拠点）を推薦したことが報告された。

7. その他

支部規約の提出について（東條尚子 会則改定委員会 担当理事）

各支部規則最終版確認のため、前回の理事会に続き、再度、提出依頼された。

Ⅲ 審議事項

1. 第63回学術集会最終会計報告（神戸 2016/9/1-9/4）（小柴賢洋 会長）

第63回学術集会の最終会計収支報告がなされ、承認された。

2. 第34回臨床検査専門医認定試験最終会計報告（東京 2017/8/5-8/6）（諏訪部章 会計理事）

第34回臨床検査専門医認定試験の最終会計収支報告がなされ、承認された。

3. 2017年度補正予算案・2017年度中間実績報告・2018年度予算案について（諏訪部章 会計理事）

2017年度中間実績、2017年度補正予算案（特別会計、アジア交流基金）、2018年度予算案が提示された。

2017年度補正予算案と2018年度予算案について、主な変更、新規での計上については、次の通りであり、審議のうえ承認された。

・2017年度中間実績：1月1日～6月30日までの実金額での報告である。

・2017年度補正予算案

特別会計：第29回WASPALMへの補助金（100万円）

アジア交流基金：ASCPALM会費、WASPALMでの理事会等費用（30万円）提示

・2018年度予算案

一般会計：e-leaningによる収入（100万円）、臨床検査のガイドラインJSLM2018作成のための特別会計からの補填収入（500万円）、第11回特別例会補助金（50万円）、臨床検査のガイドラインJSLM2018作成費用（500万円）、学術推進プロジェクト助成金は委員会提案により金額の変更（250→300万円に）

特別会計：日本専門医機構への貸付金の返金（約150万円）、ガイドライン2018費用補填（500万円）

4. 2017年度中間事業報告について（東條尚子 庶務理事）

2017年度中間の事業報告がなされ、承認された。

5. 2017年度事業計画（案）について（東條尚子 庶務理事）

2018年度事業計画（案）の説明がなされ、承認された。

6. 2018年度からの名誉会員・功労会員・社員（評議員）の推薦について（矢富 裕 理事長）

名誉会員、功労会員、評議員の推薦について、資格要件が確認され、次の通り、名誉会員、功労会員、評議員として承認された。

1) 名誉会員として清島満先生

2) 功労会員として関東・甲信越支部から鶴澤龍一先生、島津千里先生、藤田清貴先生、三橋知明先生、渡邊眞一郎先生の5名、近畿支部から岩谷良則先生、小宮山豊先生の2名、中国・四国支部から土井俊夫先生1名、合計8名。

3) 評議員として、北海道支部から高橋聡先生1名、東北支部から高橋伸一郎先生1名、関東・甲信越支部から町

田哲男先生 1 名、東海・北陸支部から渡邊昌俊先生 1 名、中国・四国支部から三島清司先生、松村敬久先生、矢野彰三先生の 3 名、合計 7 名。

7. 評議員(社員)再任予定者(2018/01/01)について(矢富 裕 理事長)

2018 年 1 月 1 日付評議員再任予定者 38 名が提示された。再任手続きは、12 月下旬の評議員審査委員会での審査、審議会後となるが、評議員再任には社員総会の承認が必要のため、本理事会、11 月 16 日の臨時社員総会の承認を得ておきたい。ただし、再任の単位を満たさない場合は退任となる。

2018 年 1 月 1 日付の評議員再任予定者 38 名について承認された。

8. 平成 30-31 年度究学術推進プロジェクト研究採択課題募集内容について(矢富 裕 理事長、前川真人 学術推進化委員会 担当理事、諏訪部章 会計理事)

これまでは、隔年で 3-4 件の課題を募集し研究期間 2 年間で、毎年助成金を支給し年間合計 250 万円だったが、2018 年度からは、毎年 3 件以内の課題を募集し、1 件につき 2 年分の 100 万円を一度に支給し、年間 300 万円の予算立てとする案が提案され、承認された。

9. 臨床検査を終了した残余検体(既存試料)の業務、教育、研究のための使用について -日本臨床検査医学会の見解- 2017 年改訂案(矢富 裕 理事長、倫理委員会 通山 薫委員長、諏訪部章 担当理事)

本見解については、9 月 8 日に理事に配信し確認依頼をしていた。委員会としては、本理事会での意見、第 64 回学術集会(京都)倫理シンポジウムでの議論を経て最終改訂案を策定予定であることが報告され、承認された。

10. 委員会委員の追加について(矢富 裕 理事長)

下記 3 委員会からの委員追加について諮られ承認された。

- 1) 臨床検査室医療評価委員会：曾根伸治先生(東京大)
- 2) 遺伝子委員会：渡邊淳先生(日本医大)
- 3) チーム医療委員会：小谷和彦先生(自治医大)、メ谷直人先生(国際医療福祉大熱病院)、山中崇先生(東京大)

11. 専門医制度関連事項について(矢富 裕 理事長、山田俊幸 副理事長、専門医担当理事)

日本専門医機構専門研修プログラムの専攻医登録スケジュール、本会の過去 8 年間の臨床検査専門医合格数、現制度での研修開始届提出数(新制度のカリキュラム制での登録数に相当)が資料として示された。本会としては、プログラム制での専攻医登録数に多くを期待することは困難であるが、カリキュラム制には期待が持てる。ただし、過去の専門医試験合格者数からは研修開始届提出数が少なく、実態と乖離しているため、現制度で研修中の専攻医には研修開始届の提出を、来年度からのカリキュラム制研修開始予定者には専用の申請書の提出を、支部会員に徹底してもらいたい。もし、登録数が不足で基本領域での存在意義の指摘がされた場合は、機構への要望書提出、あるいは、各支部の施設で必要である場合は文書を送付する用意があることが報告、検討され、今後の状況をみて対応していくこととなった。

12. 交通費申し合わせの一部改定について(諏訪部章 会計理事)

他団体会議等で交通費の支給がある場合、または他団体会議等の出席後の移動での交通費についての申し合わせについて、他団体会議等で交通費の支給がある場合には、重複しての申請は避けること。いかなる場合も、勤務先又は自宅から学会事務所までの往復の正規料金を超える額の交通費は支給できない。と改定する案が提示され承認された。

13. 2018 年度会員名簿について(矢富 裕 理事長、諏訪部章 会計理事)

会員名簿について、前回、掲載内容の誤り、掲載の有無などの問題があった。他学会での発行状況を調べたところ、冊子、電子媒体でも作成していない、また、個人情報保護、経費削減ということもあるため、2018 年度会員名簿から発行しない提案がなされ、承認された。ただ、ホームページ上での掲載が可能かどうかを今後検討していく。

14. 2018 年度各契約更新について(矢富 裕 理事長)

2018 年度以下の契約更新について確認のうえ、承認された。

- ・顧問(弁護士：古川俊治先生、会計：野澤孝志先生)
- ・臨床病理編集製作：宇宙堂八木書店
- ・事務委託：宇宙堂八木書店

- ・外部販売：克誠堂出版
- ・広告募集：日本廣業社、福田商店広告部、学術広告社

15. 会員証、認定証の再発行の手数料について（矢富 裕 理事長）

会員証と認定証の再発行手数料の設定について提案され、提案とおり会員証再発行は1枚500円、各認定証再発行は1枚1,000円を手数料とすることが承認された。

16. ホームページの充実について（矢富 裕 理事長）

会員、関連団体等に各種委員会の活動を広報するため、各委員会の担当理事に掲載内容の検討依頼がなされた。

17. 「検体検査の品質・精度の確保を盛り込んだ医療法等の一部を改正する法律」への対応（矢富 裕 理事長）

本件に関して、関連する議論がなされた。医療機関を含め、検体検査の品質・精度を確保するための基準が法令面から設定されることは意義あることとの理解で一致した。今後、学会として、①遺伝子委員会が中心となり、ゲノム医療における遺伝子関連検査の品質確保に関する提言(がんゲノム医療推進を踏まえて)を公表する、②臨床検査専門医がゲノム関連検査の精度管理を担うことを認識してもらえるようにするなど、人材育成に取り組む。③ISO15189の要件としての臨床検査専門医の位置付けを働きかけていくなどに関して議論がなされ、対応を継続していくこととなった。

18. その他（東條尚子 庶務理事）

次回以降の2017年度、2018年度の理事会、定時社員総会予定が報告された。

2017年度第4回理事会：2017年12月23日（土）13：30～16：30

2018年度第1回理事会（現，新）：2018年3月24日（土）学士会館

2017年度に係わる定時社員総会：2018年3月24日（土）学士会館

VI 閉会の挨拶（副理事長）（山田俊幸 副理事長）

山田俊幸副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

以上

議事録署名人

小柴 賢洋 ㊞

岡山 昭彦 ㊞